

名張市立病院



【病院概要】

開設	平成9年4月21日
開設者	名張市長 亀井 利克
院長	藤井 英太郎
病床数	一般病床 200床
標榜診療科（9科）	内科、循環器内科、外科、小児科、整形外科、 脳神経外科、眼科、放射線科、麻酔科
患者数	
外来患者	358. 1名/日
入院患者	174. 4名/日

1. 院長挨拶

院長 藤井 英太郎

名張市は、紀伊半島の中心の盆地に位置します。人口は約8万人で、大阪の最東端のベッドタウンであり、一時はマイホームを求めて若い世代の流入を認めましたが、現在は他地域と同様に高齢化が急速に進んでいます。

名張市立病院は、名張市南部の丘陵地の閑静な住宅団地の一角にあります。眼下には市域の中央に流れる名張川や中心市街地が一望できる素晴らしい環境の中にあります。また、一年中自然の変化が楽しめ、伊賀牛、地酒などの食物が美味しい土地柄でもあります。

当院は、市域において高度医療・救急医療に対応できる病院がなかったことから、平成9年に設置された比較的新しい病院です。「市民の皆様に親しまれ信頼される病院を目指す」を基本理念と定め、専門知識と経験が豊富な医師、親切で思いやりのある看護師、確かな技術を持つ医療技術員と、最先端の医療設備を備えて、地域の中核病院として地域住民に親しまれ、信頼される病院を目指しています。

当院は病床数200床で市内唯一の急性期病院です。紹介すべき症例は適切に後方病院へ紹介する必要がありますが、一旦はすべての症例の初療を名張市立病院で行うため、commonな疾患はcommonな頻度で、rareな疾患はrareな頻度で経験することができます。地域における医師研修では鑑別診断としての頻度を考慮することもとても重要です。

平成24年度からは名張市立病院地域医療教育研修センターを設立し、医師初期臨床研修のみならず医学生の実習受入、多職種連携の学習会、地域包括ケアの取り組み、臨床研究などを主管し、教育研修の質の改善に取り組んでいます。

将来どの専門分野に進むにしても、少なくとも初期研修の2年間は総合的、包括的な患者アプローチの中で、適切なコミュニケーション能力、社会性、身体診察能力、問題解決能力を身につけ、主治医機能を修得することが最も重要と考えます。

以上のような研修を提供すべく、名張市立病院としても初期研修医のみなさんと一緒に日々、改善を積み重ねていきたいと思っています。

冬はやや寒いですが、大阪にも名古屋にもアクセスが良く住みやすいまちです。名張で一緒に地域医療を学んでみませんか。

**小さな病院で
多くの経験を！！**

2. 研修目標

本プログラムは、医師臨床研修制度の理念に基づき、医師としての基盤形成の時期に、医師としての人格を涵養すると共に、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、患者さまを全人的に診ることができる基本的な診療能力(知識・技能・態度)を修得することを目的とする。

具体的には、日常診療で頻繁に遭遇する病気・病態や救急疾患への初期対応ができる診療能力を習得するとともに、インフォームド・コンセント、医療事故防止、病診連携、小児・老年医療のあり方などを身につけるものとする。

3. ローテーション例

※実際には月単位ではなく週単位でのローテーションとなりますが、便宜上、月単位で表記しています。

ローテーション例												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						外科	救急			精神	産婦
2年次	選択科						小児	麻酔	地域	選択科		

■ 三重大学医学部附属病院にて研修
■ 他病院にて研修 ■■■ 当院にて研修

※必修科は、内科（24週以上）・救急（12週以上）、地域医療（4週以上・2年次）、外科（4週以上）、小児科（4週以上）、産婦人科（4週以上）、精神科（4週以上）、一般外来（4週以上）です。

※一般外来研修は原則として並行研修を想定しています。

4. 研修計画(教育課程、研修期間)

三重大学医学部附属病院の協力型病院としての位置づけによる、厚生労働省の定めた基準に基づく研修カリキュラムを、研修医の希望を最大限考慮した上で作成し、研修を行う。

三重大学医学部附属病院における研修期間 12ヶ月(うち1ヶ月は地域医療研修)

名張市立病院における研修期間 12ヶ月

5. 指導体制

原則として、研修医1名に対して、指導医1名がつく。

また、疾患によっては、専門の上級医の指導を随時受けることができる。

なお、指導体制はローテーションする科の指導医が研修医の指導にあたりるとともに、患者さまに対しての責任を持ち、各科の指導責任者がこれを総括する。

6. 研修の記録及び評価方法

各科ローテーション終了時に初期臨床研修到達目標に関して、評価表等で評価を行う。

各科の指導医は、自己評価結果を検討し、到達目標達成を支援する。

各科の指導責任者は、研修終了時に評価を行い、三重大学病院・研修管理委員会に報告する。

7. 各診療科等紹介

① オリエンテーション

※研修目標

三重大学医学部附属病院・名張市立病院での研修を開始するにあたり、病院の理念とシステムを理解し、他の職員と協力して、円滑な業務、研修を行うことを目標とする。

三重大学採用の研修医と共にオリエンテーション(MMC新採用研修医合同オリエンテーション)を行い、当院配属後、当院でのオリエンテーションを行う。

② 内科研修(循環器内科、消化器内科、総合診療科)

*研修目標

このプログラムは広く患者さまに求められるプライマリーケアを安全かつ確実に実践するために必要な内科的診断、治療及び技能、さらに患者さまに対する医師としてふさわしい態度を修得する。

*内 容

- 【病棟研修】 : 上級医との2人主治医制とし、6ヶ月間で50例以上の症例を経験することを目標とする。上級医として循環器、消化器、呼吸器、内分泌/糖尿病、血液、神経内科の担当医が指導を行う。その他の分野(中毒、感染症、アレルギー、膠原病など)については、症例の有無により随時担当、研修する。
- 【外来(救急)研修】 : 輪番日に救急研修を行う。
- 【各種検査研修】 : 上部消化管内視鏡、胃透視、大腸内視鏡、腹部エコー、心エコー、トレッドミル、カテーテル検査など
- 【各種手技】 : 点滴ルートの確保、中心静脈カテーテルの確保、気管内挿管、カウンターショック等

③ 外科系(外科、脳神経外科、整形外科)研修

*研修目標

研修医が、患者さまに求められるプライマリーケアを安全かつ的確に実践するために、外科、脳神経外科、整形外科の各分野を通じて、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に対する外科的診断能力、外科的基本手技を身につけることを目標とする。

外科研修

- 【病棟研修】 : 上級医との2人主治医制。一般的な疾患を中心に3ヶ月間で20例以上の症例を経験することを目標とする。手術手技のみならず、消化器外科を中心に内分泌外科、呼吸器外科、小児外科につき術前・術後管理を研修する。
- 【術前管理】 : 臨床診断を基に、患者さま個人に応じた手術適応、手術危険度を判定し、有効かつ危険度の少ない手術を行うための準備を行う。
- 【手術】 : 手術に必要な局所解剖を理解し、術者の助手を努める。外科研修期間中いくつかの手術に関しては、指導医のもと、術式について患者さまに説明し、術者として手術を行う。
- 【術後管理】 : 患者さま個人、手術術式に合わせて、安全で速やかな術後回復が得られるように、治療計画を立て、術後合併症に注意し実施する。

脳神経外科研修

- 【診断】 : 指導医の元に中枢神経系の神経学的診断、放射線学的診断を、入院患者さますべてを対象に実践する。研修後半では脳血管撮影を含めた侵襲的検査も実習する。
- 【治療】 : 指導医と伴に入院患者さまを受け持ち、臨床診断の結果から治療計画を立て、症例カンファレンスにて発表する。手術適応が決定された場合、その術式、妥当性につきEBM議論を展開する。
- 【手術】 : 基本的な手術の流れを理解し、術者助手の役割を学ぶ。機器を覚え、その基本的使用法を学ぶ。研修後半では、脳室ドレナージなどの基礎的手術手技を術者として実践する。
- 【術後管理】 : 感染防止、合併症予防などの術後管理における基礎を学ぶ伴に、NCUでの患者管理を実践する。

整形外科研修

- 【病棟研修】：上級医との2人主治医制。一般的な疾患を中心に1.5ヶ月間で10例以上の症例を経験することを目標とする。整形外科的疾患の診断、保存的加療、手術手技、整形外科的外傷のプライマリーケア、徒手検査手技、ギプスや副木等の外固定法を研修する。
- 【術前管理】：臨床診断を基に、患者個人に応じた手術適応、手術危険度を判定し、有効かつ危険度の少ない手術を行うための準備を行う。
- 【手術】：手術に必要な局所解剖を理解し、術者の助手を努める。整形外科研修期間中いくつかの手術に関しては、指導医のもと、術式について患者に説明し、術者として手術を行う。
- 【術後管理】：患者個人、手術術式に合わせて、安全で速やかな術後回復が得られるように、治療計画をたて、術後合併症に注意し実施する。
- 【外来(救急)研修】：整形外科当直医の指導のもと当直で研修を行う。外来のみならず、緊急手術にも参加する。木曜日は時間内の救急患者に指導医のもと対応する。
- 【各種検査研修】：徒手ストレス撮影、透視下徒手整復など
- 【各種外科手技】：麻酔法、消毒、切開、縫合、骨接合手技

外来(救急)研修 ※それぞれの科目に含む

外来(救急)研修

外科系当直医の指導のもと輪番当直で研修を行う。外来のみならず、緊急手術にも参加する。非輪番日は時間内の救急患者に指導医のもと対応する。(月、水:外科指導医、火、木:整形外科指導医、金:脳神経外科指導医)患者がない時は各科の検査・手術を研修する。

各種検査研修

上部消化管内視鏡、胃透視、腹部エコー、大腸内視鏡、術後検査

各種外科手技

麻酔法、消毒、切開、縫合、ルートの確保、中心静脈カテーテルの確保、気管内挿管、気管切開など

④ 麻酔科研修(三重大病院等)

*研修目標

周術期の患者管理を通じて麻酔科の役割を理解し、基本的な知識と手技の習得を目指す。鎮痛、鎮静及び呼吸循環の管理により質の高い麻酔が実施できることを学ぶ。

*内 容

麻酔指導医のもと、術前評価を行ないそれに基づいた麻酔計画を作成する。麻酔法について学習し、症例においてその理解を深めるようにする。侵襲の大きな手技(気管内挿管、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、動脈ライン確保等)を如何にしたら安全に実施できるかを学ぶ。

⑤ 小児科研修

*研修目標

患者さまに求められるプライマリーケアを安全かつ確実に実践するために必要な、小児の問診と診察による情報の取得、各種検査を通じて的確な診断、救急処置や基本的な薬物療法を修得する。

*内 容

当院での小児科研修の第一の目標は外来研修において家族(主に母親)、病児との医療面接によって良好な信頼関係と人間関係を確立し、以後の医療がスムーズに行える様なコミュニケーションのとり方、対処方法を学ぶことである。更に小児期の疾患のうち多く見られる呼吸器疾患(気管支炎、肺炎、喘息など)や消化器疾患(急性胃腸炎など)とそれに伴う脱水などに対する的確

な診断、検査、処置、治療が行えるよう研修することも基本的な目標としている。また、専門外来において循環器疾患(先天性心疾患、不整脈など)、痙攣性疾患(熱性痙攣、てんかんなど)、アレルギー疾患(喘息、アトピー性皮膚炎、食事アレルギーなど)等の診断、処置、治療等を学ぶ。

当院救急外来において救急医療を体験することにより発熱、痙攣、喘息などによる呼吸不全、異物誤飲誤嚥、腸重積などの小児救急疾患の種類、診断、病態の把握、対処法を学び重症度に基づくトリアージの方法を学ぶ。

更には病児のみでなく新生児、乳幼児の健診を行うことで小児の成長、発達の特徴を学び母親の育児不安を解消して育児支援に役立つことを学ぶ。

予防接種外来においては予防接種を体験し、小児期に行う予防接種の種類、望ましい接種時期、接種方法、接種後の副反応や禁忌などについても学ぶ。

基幹型臨床研修病院(三重大大学医学部附属病院)では、新生児を扱うNICUでの研修も体験し、実態を把握する。

⑥ 産婦人科研修(三重大病院等)

* 研修目標

産婦人科の領域は、周産期学、腫瘍学、生殖内分泌学と広範囲であり、内科系、外科系といった既存の概念とは異なり、女性を全人的に担当する科といえる。研修医は産婦人科医としてのプライマリーケアと一次救急に必要な基礎的知識・技能・態度を修得する。

⑦ 精神科研修(三重大病院等)

* 研修目標

これからの医師は、身体的次元だけではなく心理的・社会的次元でも患者を把握し、サポートする能力が求められる。そのために精神医学の基本を習得し、プライマリーケアで遭遇することの多い疾患や病態に適切に対応でき、必要な場合には精神科への診察依頼ができるような能力・技術を身につけることを目標とする。同時に精神科医科への社会的ニーズを実感をもって体験し、患者－医師関係やチーム医療、地域生活支援体制などについても幅広く研修する。

* 内 容

頻度の高い症状(不眠、けいれん発作、不安・抑うつ)や緊急を要する症状・病態(意識障害、精神科領域の救急)及び経験が求められる疾患・病態(症状精神病(せん妄)、痴呆、アルコール依存症、うつ病、統合失調症、不安障害(パニック症候群)、心身症)の患者を担当し、患者との関係やチーム医療、医療面接及び精神疾病の診断と対処・治療等について習得する。

⑧ 地域医療研修(協力病院等)

* 研修目標

研修者が僻地医療や訪問診察など研修病院内では得難い経験をすることにより、患者さまの生活環境や社会的背景にも配慮した、より広い視点からの医療、診療計画の立案を修得することを目標とする。

* 内 容

医療全体における地域保健・地域医療の位置付けや地域特有の患者背景、医療環境を理解し、名張市立病院では経験できない医療研修をおこなう。

⑨ 選択研修(当院、三重大病院、協力病院等)

* 研修目標

初期研修を総括し、後期研修にステップアップし自らの方向性を決める為に、興味ある専門領域の基礎に触れ、進路決定の一助にする。

* 内 容

研修医の選択する科目

8. プログラムの管理運営体制

名張市立病院は三重大学医学部附属病院の協力病院であり、当院の研修医は三重大学医学部附属病院オーダーメイドプログラム「名張コース」所属となるため、三重大学医学部附属病院での管理運営となります。

9. 募集定員

研修医募集定員数

区 分	公募によるもの
1年次	3名(予定)

10. 臨床研修終了の認定及び臨床研修修了証の交付

名張市立病院は三重大学医学部附属病院の協力病院であるため、三重大学医学部附属病院により、修了の認定及び臨床研修修了証の交付がなされる。

11. 臨床研修終了後のコース

臨床研修修了後の進路は本人の自由とする。

研修医の希望があれば、医員として引き続き当院に従事することができる。

12. 研修医の待遇

【研修医の待遇】

(平成31年4月1日現在)

身分	名張市職員(正規)	
給与・手当	〔1年目〕	
	・ 基本給	343,200円(名張市医療職給料表(一)1級29号)
	・ 期末勤勉手当(賞与)	2.8925ヶ月分
	・ 扶養手当	扶養親族の有無により支給
	・ 地域手当	(基本給+扶養手当)×16%
給与・手当	・ 医師研究手当	なし
	・ 時間外手当	実労働時間分支給(支給単価は基本給に基づき設定)
	・ 宿日直手当	10,000円/回
	・ 年次有給休暇	15日間(夏期休暇として別に5日間)
	〔2年目〕	
給与・手当	・ 基本給	349,900円(名張市医療職給料表(一)1級32号)
	・ 期末勤勉手当(賞与)	4.45ヶ月分
	・ 扶養手当	扶養親族の有無により支給
	・ 地域手当	(基本給+扶養手当)×16%
	・ 医師研究手当	なし
給与・手当	・ 時間外手当	実労働時間分支給(支給単価は基本給に基づき設定)
	・ 宿日直手当	10,000円/回
	・ 年次有給休暇	20日間(夏期休暇7日間、その他特別休暇)
その他の福利厚生	・ 宿 舎	併設官舎または賃貸住宅を宿舎として借用
	・ 健康保険	三重県市町村職員共済組合
	・ 公的年金	厚生年金保険
	・ 労働保険	地方公務員災害補償法の適用

その他の福利厚生	・ 雇用保険 ・ 医師賠償責任保険 ・ 健康診断 ・ 職員駐車場 ・ 通勤手当 ・ 住居手当 ・ 学会参加	未加入（公務員のため） 個人で加入（病院としては加入していない） 年2回実施、ストレスチェック有り 有（無料） 名張市職員の給与に関する条例に定めるところにより支給 名張市職員の給与に関する条例に定めるところにより支給 但し、医師宿舎に入居しなかった者のみ 出張旅費院内規定により旅費を支給
----------	---	--

【推定年収】

〔1年目〕 約800～900万円（時間外等含む例）

〔2年目〕 約850～950万円（ ” ）

13. 応募手続（応募先、必要書類、選考方法等）及び採用方法

三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援部 初期研修センターへ所定の応募書類を提出する。なお、名張市立病院における研修を重視したプログラムを希望する者は、同応募用紙の希望コースで「オーダーメイドプログラム（ ）」を選択し、（ ）に「名張市立病院コース」と必ず明記すること。内定者には、文書にて通知し、4月（医師国家試験合格発表後）より、研修を開始する。

※マッチング応募

募集期間、試験日 例年 7～8月頃

（三重大学医学部附属病院 臨床研修・キャリア支援部にお問い合わせください）

マッチング終了後、臨床研修に関する仮契約を速やかに行う。

※非マッチング者

マッチング終了後、随時面接の実施予定。 願書締切日 ： お問い合わせください

お問い合わせ先

〒518-0481 三重県名張市百合が丘西1番町178番地

名張市立病院 事務局 総務企画室

電話 0595-61-1100（代表）

FAX 0595-64-7999

E-mail: hp-somu@city.nabari.mie.jp

URL: <https://www.nabari-city-hospital.jp>